

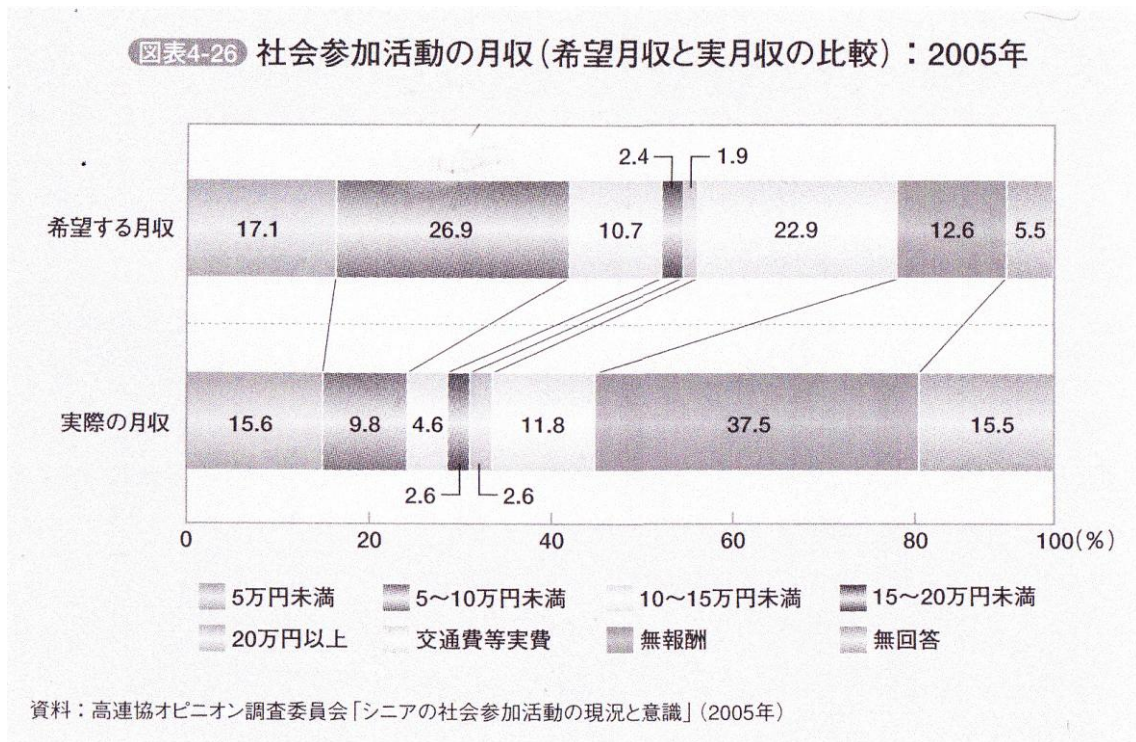
## 統計資料

### ボランティア 高齢者の社会参加活動と月収

高齢者が個人的な「余生」としてではなく、社会参加による自己実現（生きがい）を求めて活動するボランティア活動は、わが国では善意の無料奉仕という暗黙の了解がなりたっている。欧米社会では相応の対価を保障するのは当然のこととされているのと違って、善意の無料奉仕に意味がある世情にあっては、報酬についての本音の数値は得づらい環境にある。そのなかで、高連協（高齢社会NGO連携協議会）のオピニオン調査委員会がおこなった調査「シニアの社会参加活動の現況と意識」（2005年、1500名、回答884名、平均年齢66.7歳）は、貴重なデータでありひとつの指標となる。

それによると、「社会参加活動の分野」は、高齢者の社会参加活動の支援45.6%、地域社会づくり37%、学習・社会教育27.1%、高齢者福祉サービス25.2%、文化・技術の伝承11.9%、環境保全11%など。「参加の目的」は、生きがい57.1%、人々との交わり56.8%、社会貢献47.3%、心身の健康43.1%、喜ぶ人がいる40.4%、自身の存在感31.3%、・・経済的理由5.9%。

そして「参加活動で望む月収」は、「希望する月収」と「実際の月収」は次の統計のようになっている。



『図表でわかる 新少子高齢社会の基礎知識』（エイジング総合研究センター 2010・8）